



山本益生

やまもとますお●山形県鶴岡市出身。1974年農学部農業工学科卒業。鶴岡市職員を経て2009年11月に鶴岡市副市長に就任、2期目。2012年より山形サッカー協会会長も務めている。

夢中の成果



山大聖火リレー

農学部のある鶴岡市で生まれ育った山本益生さんは、農家の長男ということもあり、ごく自然に地元に着くことを選択し、本学農学部で学び、鶴岡市の職員となった。土木課勤務等を経て農林水産部長を勤め上げた後、2009年11月に副市長に就任。現在、2期目を務めている。市長を補佐する副市長としての職務は、行政全般に関与するため実に多岐にわたる。それら鶴岡市が進める政策のさまざまな場面で、農学部の先生方や学生たちに協力を仰ぐことも少なくない。また、公務で同じ山大OBに出会うことも多く、同窓という親近感から物事が非常にスムーズに運ぶこともある。折に触れ、大学が身近にあることの意義の大きさを感じているという。

そんな山本さんの山大生時代はというと、農業工学科で農地造成を専攻し、卒論テーマは土壌学だった。しかし、思い出に残っていることの大半はサッカーとスキー。中でも一番の思い出は、農学部でサッカー部を創部したこと。中学・高校とサッカーに夢中だった山本さんは、1年半過ぎた小白川キャンパスでも当然サッカーを続けていたが、2年次後期に鶴岡に戻ってみると農学部にはサッカー部がなかった。そこで、すぐに仲間たちと協力してサッカー部を創部したのだった。現在、山形県サッカー協会の会長も務めている山本さんは、長年、スポーツ少年団で子どもたちの指導にあたっていたこともあり、人脈も広く深い。多忙な公務のリフレッシュもかねて今も現役でサッカーを楽しんでいる。

「森林文化都市を目指す鶴岡市、基幹産業を農業とする鶴岡市、やはりこの町に農学部がある意義は大きいですよ」と山本さん。大学には感謝し、さらに期待もしているようだ。学生たちに対しては「学生という立場を大いに利用して、いろんなことに挑戦し、何かに夢中になってほしい。市に何か提案してくれるというのもいいね」と、懐の深い先輩は、後輩たちの飛躍を後押ししたくてウズウズしているようだ。



生まれも育ちも仕事も、鶴岡市一筋。副市長は、地元&サッカー愛のスポーツマン。

山本益生 鶴岡市副市長



今年5月9日に行われた「災害対策本部図上訓練」で発言をする副市長山本さん。近年頻発する自然災害などに備え、市民の生命と財産を守るべく、緊張感をもって訓練に臨んだ。



当時、農学部にはサッカー部がなかったため、山本さんたちが創部活動を行った。写真は当時のメンバーで、一人だけ赤いユニフォームを着ているゴールキーパーが山本さん。